

令和2年度4県連携自主防災組織 交流大会(事例発表会)



発表者
是友・奥名自主防災会
会長 樋口 義博

1. いの町について



瓶ヶ森線 (UFOライン)



仁淀川紙のこいのぼり



奇跡の清流仁淀川の
「仁淀ブルー」

①いの町の紹介

(人口) 22,767人 (H27度国勢調査)

(面積) 470.97km²

(地理) 町の南部は、幹線道路 (国道33号) と鉄道 (JR土讃線、とさでん交通) により高知市と結ばれており、北部は愛媛県に接している。

(気候) 温暖多雨で四季の調和が保たれた平野部から、冬季は最低気温が-10度にも達する山間部まで変化に富んでいる。

2. 水害との闘い

仁淀川の堆積作用でできた伊野低地部は、宇治川に代表されるように、低奥方地形のため、河川流下能力が低く、仁淀川本流の増水により、過去何度も内水害に悩まされてきた。

●平成26年8月の台風12号、台風11号での被害

- 伊野雨水観測所で48時間雨量751mmを記録。
- 枝川地区を中心に床上浸水152戸、床下浸水143戸
- 1週間後の台風11号では、床上浸水18戸、床下浸水38戸
- 大部分の浸水被害は、宇治川流域で発生。



浸水被害が新聞で伝えられる



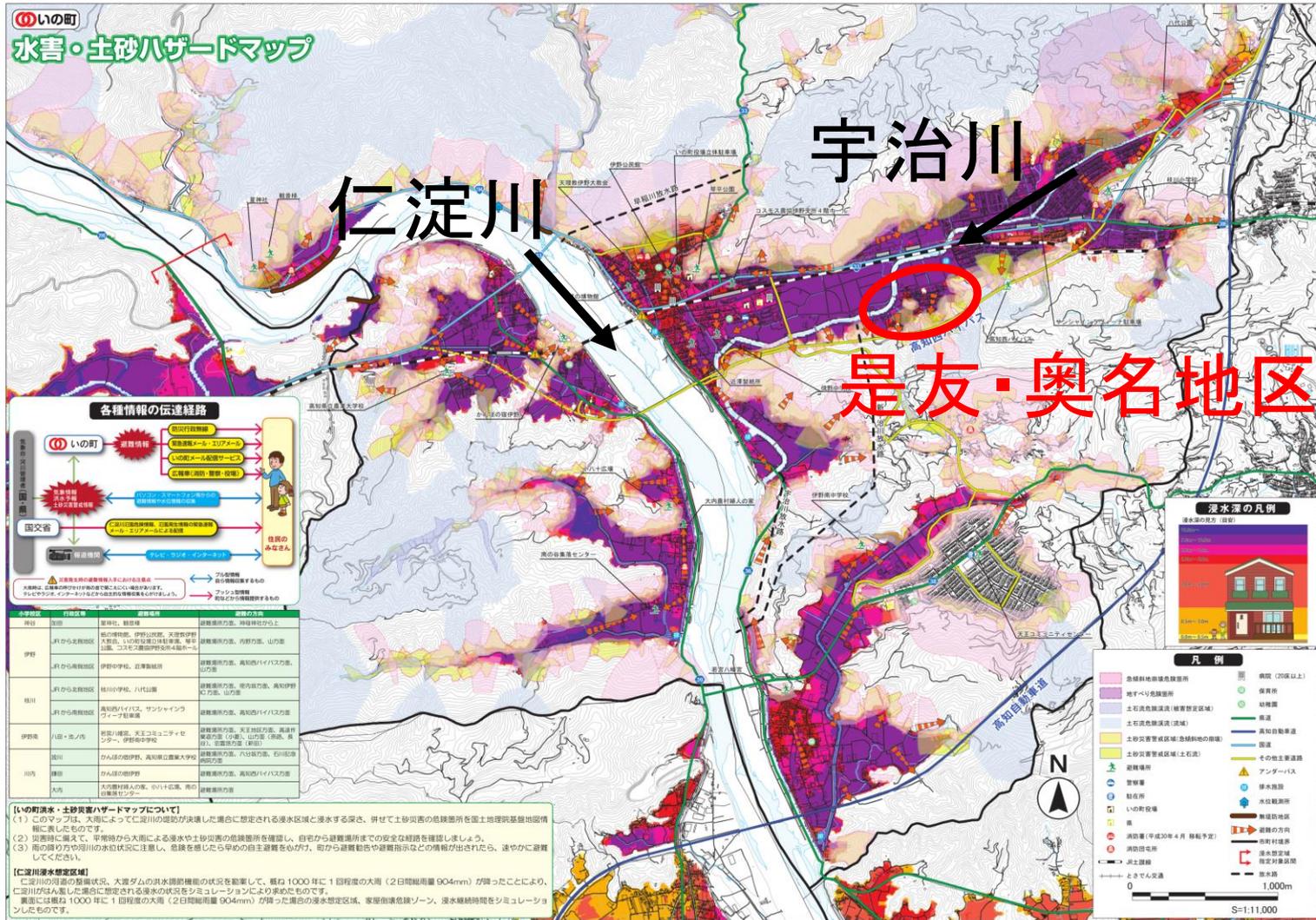
住宅地では胸元まで浸水



国道33号や電車軌道も冠水

3. 最大規模浸水区域等の公表

仁淀川と宇治川の最大規模降雨（1,000年に1度）による洪水浸水想定区域等が公表される。是友・奥名地区では、仁淀川最大想定浸水深が7m超、宇治川最大想定浸水深が2m超となっている。



4. 是友・奥名地区自主防災会の取り組み

毎年の豪雨災害や南海トラフ地震に備えた、

是友・奥名自主防災会の取り組みを紹介します。

設立年度：平成17年

世帯：215世帯

人口：605人

【方針】 防災の原点は、共助の環境づくりから！

①体制を整えて連携強化！

・役員構成

会長1名

副会長2名

地区長2名

防災委員（16名）（任期は1年）

防災隊員（20名）（任期は3年）

班単位での防災活動をサポート！

②要配慮者、準要配慮者の支援体制も！

・各班にお助けマンを選任

4. 是友・奥名地区自主防災会の取り組み

③防災訓練・研修

～地域の災害リスクを知る！～



防災マップの確認



洪水ハザードマップを活用した防災学習会

④消火・救命訓練

～定期的な訓練を実施！～



4. 是友・奥名地区自主防災会の取り組み

⑤手押しポンプ等の整備

～必要な場所に、必要な資機材を～



手押しポンプ2箇所



生活水の確保



消火器設置16箇所

4. 是友・奥名地区自主防災会の取り組み

⑥防災は共助の環境づくりから ～人が集まるところに防災を～



地域行事に併せて炊き出し訓練も実施



世代間を越えた交流が、防災活動の活性化へ



地区運動会の種目で消火訓練やバケツリレーを実施。盛り上がります！

4. 是友・奥名地区自主防災会の取り組み

⑥防災は共助の環境づくりから ～地区活動を主催～



案内看板の設置



土俵づくり



夏祭りの準備

高知大学地域協働学部の学生らと定期的に交流



地域の花街道を整備



地域の広場を整備

4. 是友・奥名地区自主防災会の取り組み



宇治川氾濫から如何にして、命を守るのか。避難手段の自家用車も守りたい。

⑦命を守る取り組み

～避難所・避難場所の確認！～

2階が避難所
屋上が避難場所



仁淀川浸水想定深

宇治川浸水想定深



令和元年 町が整備した防災備蓄倉庫兼避難所

⑧自家用車も守る取り組み

～高台避難場所の検討、交渉！～

防災隊員による検討会



5. 最後に

今後も、是友・奥名地区自主防災会は「共助の環境づくり」を目標に、
地域活動や防災活動に継続して取り組んでいきます。

●住民の防災活動への参加意識

- 共助の環境づくりを充実させて、若い世代の防災活動への参加者を増やす。
- 避難所を防災活動の場として活用し、住民が参加できる機会の確保。

●命を守るための防災活動

- 避難訓練や防災学習会を繰り返し実施。
- 要配慮者、準要配慮者のお助けマン組織の活動を促進。

●財産を守るための国土強靱化

- 仁淀川氾濫に対しては、自主防災活動だけでは無力。
- 河川整備計画、流水治水計画等の見直しと早急な計画実行の働きかけ。